



ISSN 0285-130X

旬刊

5.15.25日発行

1部200円

広島県医師会速報の代金会  
員負担1回200円は県医師  
会費に含まれています。

## 第1746号

### 主な目次

年頭所感	真田幸三	1頁	お知らせ事項	21頁
年頭所感	坪井栄孝	2頁	三宅村避難住民費用負担	23頁
年頭所感	檢田仁	4頁	医師国保の菜	26頁
第二十四回常任理事会記事	真田幸三	6頁	二〇〇一年仲辺談話	
論壇「准看と消費税問題」	大田浩右	9頁	川堀耕平、河内清、岡橋清、 大多和泰弘、半田正文、阿部和弘、 新田耕作、小野文孝	27頁
第三回「死体検案」研修会	辰川自光	18頁	書評	(高杉敬久) 37頁
			禁煙コーナー	(岩森茂) 38頁

### 年頭所感

# 新世紀を迎え心新たな飛躍を!

広島県医師会長 真田幸三

支援を賜り、誠にありがとうございました、深く感謝申し上げます。

さて、二十世紀も終わりましたが、わが国の政治経済情勢は依然として低迷を続け、先行き不透明のまま二十一世紀に突入しました。

我々の医療や社会保障を取り巻く環境も、国の医療政策は医療費の抑制にのみ重点がおかれており、高齢者医療保険制度を含めた抜本改革が真剣に審議されていないというのが現状であります。しかし、昨年一年を振り返ってみますと、医療制度の上で大きな変革がなされた年であったとも思っております。

日本医師会は診療情報の開示制度をスタートさせ、ついで五十年振りに『医の倫理綱領』を作成し、この二つを二十一世紀に向けての日医会員の医療に取り組む医師の倫理規範としたことは、医療提供体制の今後の指針として大きな意義があったものと思っています。

さらに昨秋の十月、世界医師会長に就任された坪井日医会長は、医療構造改革構想について、医療の中期的ビジョンとも言つべき「二〇一五年医療のグランドデザイン」について提唱され、これからの少子高齢社会における医療政策、医療制度改革について将来ビジョンを提示されております。

一方、国は高齢者医療制度改革の一端として、昨年四月公的介護保険制度をスタートさせました。この介護保険制度については、将来的には医療保険と一体化させることも考え、また、医療側も介護を無視しては高齢者医療制度もやっつけられないということで、医師会をあげて介護保険に対応しているところでもあります。



謹んで新世紀新年のご挨拶を申し上げます。

広島県医師会会員の皆様、ご家族の皆様、各医療機関にお勤めの皆様、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は、本会の会務諸事業推進の上に、格別のご指導ご

さて、国会の混乱で成立が危ぶまれておりました健保法改正および医療法の改正が、去る十一月三十日に国会を通過、成立しました。これについては、本年一月一日よりの施行で、老人外来一部負担を定率を選択するか、或いは定額を選択するかと取り組みに迷うところでありましたが、診療所や中小病院の外来老人一部負担は、日医の方針で県医も定額制を推奨しますが、各人、各地区で充分ご検討いただいたことと思っております。

その他、私が広島県医師会長に就任してからほぼ三年間が過ぎようとしております。六項目の事業計画、即ち、医の倫理の徹底、高度

情報化への取り組み、介護保険対策、会員福祉、特に勤務医対策、医政活動、教育行政への積極的参画 に対し、会員の皆様のご指導ご協力を仰ぎながら、その実現に一層の努力を重ねて参る所存であります。これこそ県民との共通の利益をもたらすものと強く確信致しております。

おわりに、本年も執行部一丸となつて医師会会務・諸事業に、また、医政活動に頑張つて参りますので、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

皆様のご多幸とご繁栄を祈念しつつ、私からの新年のご挨拶と致します。

# 年 頭 所 感

日本医師会長 坪 井 栄 孝



平成十三年の初春を迎えるに当たりまして、会員の皆様にご心からお慶びを申し上げます。皆

様におかれましては、今年には新世紀の幕開けとしての特別の感慨があるつかと思ひます。

さて、二十一世紀の初頭に立つとき、まず二十世紀とはどのような時代であったのかを、振り返つてみたいと思ひます。およそ一〇〇年前の世界状況は、各地で各国間の戦争が勃発し、それ以後、二つの世界大戦をはじめ、政治や宗教、そして民族間の戦争が間断なく繰り返され

## 謹 賀 新 年

2001年 元 旦

広島県医師会

副 議 監 理 常任理事 副 会 会  
議 長 事 事 長 長  
長 長 事 事 長 長

石高鷹柴小西望藤行島黒青槇森大山高梶海茶新新中横碓田桑真  
井島橋田野村月井武崎瀬山殿田田本杉川田幡田本谷山井邊原田  
大義靖 文茂 一正 康 博典泰敬憲智隆康 一 静玄正幸  
二範幸醇孝樹昭男躬朗平喬敦方也次久治行之郎稔彌隆照三彦三